

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果(平成24年度)の概要

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ①グリーン・イノベーション分野(4/10)

	評価区分(*1)	総合評価 (IとIIの 平均値 にIIIを加 味)	I 目標に向けた取組の進捗に関する評価	II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	III 現地調査時の指摘事項及び対応状況等(*2)	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
あわじ環境未来島特区 (兵庫県等)	正	B 4.3	B 3.7 進捗度 ・再生可能エネルギー創出量 100% ・二酸化炭素排出量(※) 等 (※)は定性的評価	B 4.4 規制の特例等 ・太陽光発電施設整備における工場立地法上の規制緩和等 財政支援等 ・地球温暖化対策技術開発・実証研究事業(基礎データの収集、評価モデルの構築等)等 地域独自の取組 ・あわじ環境未来島太陽光発電システム整備補助金等	+0.25	<p>・数値目標の設定、各事業の連携の効果、各種支援措置、地域独自の取組のそれぞれにおいて明確かつ、丁寧な記述を行っている。実際の取組内容も充実しており、しっかりと進捗している(※1)。多彩な事業を組み合わせで展開している(※2)。一方で、進捗を管理する適切な目標設定(※3)が必要と考える。</p> <p>※1: 評価指標(3)「再生可能エネルギー創出量」(H24年度目標)116GWh、(実績)116GWh、進捗度100%。評価指標(5)「新規就農者数」(H24年度目標)46人、(実績)57人、進捗度124%</p> <p>※2: (例1)「数値目標の設定」では、10の評価指標のうち、定性的評価でしかとらえられない例えばエネルギー(電力)自給率について、電力創出と電力抑制の傾向を基に定性的評価。(例2)「各事業の連携の効果」では、①エネルギー持続の地域づくりへ向けて、実証実験の取組を線をつなげることにより、観光振興で地域活性化を図る取組。②新規就農者数については、本格就農人材育成のみならず、クラインガルテン利用などにより裾野の広い農業関連人口の増加等。(例3)「地域独自の取組」では、太陽光発電支援補助金、農業人材育成(実習研修等)、農業支援(フォークリフト・運搬車の導入補助等)、交流人口拡大(淡路島景観づくり運動等)で積極的な事業展開。</p> <p>※3: 例えば、定性的評価をするのではなく、評価指標(4)「一家庭・一事業所当たりエネルギー消費量」では、調査対象家庭、事業者をモデルとして設定してその測定を行うなどの試み、評価指標(10)「交流人口」では、主要施設の来訪者数や交流人口拡大事業の進捗などでの進行管理が可能ではないか。</p>

◆評価書は[こちら](#)

◆評価結果は[こちら](#)

*1)「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。*2)「III」については、「地方公共団体による総合評価の状況」についても評価している。